

令和5年度第1回高知県アニメプロジェクト推進会議議事録要旨

- 1 日 時 令和5年10月20日（金）15:30～17:00
- 2 場 所 株式会社高知新聞社8階（高知市本町4丁目1番24号高知電気ビル新館8階）
- 3 出席者 高知県アニメプロジェクト推進会議委員 13名（代理出席を含む）
高知県アニメプロジェクトアドバイザー 1名
高知アニメクリエイター聖地プロジェクト関係者 6名
事務局（産業振興推進部）7名 他
- 4 議 事 高知県アニメプロジェクトの取組について
高知アニメクリエイター聖地プロジェクトの取組について
意見交換
- 5 議事の経過の概要
各取組について説明後、意見交換を行った。

以下、主な意見等

○商店街やよさこい祭りとの連携について

- ・コロナ後は商店街が物を売る場所から、飲食を中心に人が集まる場所、賑わいのある場所へと変わってきている。高知アニメクリエイター聖地プロジェクトで整備するビルについて、こういった拠点が出来てクリエイターやコスプレイヤーの方が参加する催しや、商店街のイベント・よさこい祭りとの連携し、回遊性が生まれることに期待している。ぜひ、電車通りだけでなく、帯屋町のアーケードにつながる活用についても検討をお願いしたい。
- ・70周年を迎えたよさこい祭りについて、子ども達にどう伝えていくかという課題がある。アニメとよさこい祭りとが上手く連動して若い方々につないでいける仕掛けを考えられないか。

○プロジェクトを通じた雇用創出、企業誘致について

- ・女性の流出などの課題がある中、高知から出ていった人を戻す、高知に住んで良かったと思ってもらえる取組をやらないといけない。Uターンサポートセンターと連携できるのであれば、このプロジェクトを産業振興計画の連携テーマ以上の大きな柱にしても良いのではないか。
- ・アニメ業界では女性の就労人口が非常に増えている。今後は県内のクリエイターのみならず県外からも積極的に採用をしていきたいと考えている。Uターンだけでなく、東京などのアニメ業界で働いている方にも興味を持ってもらい、Iターン含めて高知県に来てくれれば良いと思うので、関係者と一緒になってPR活動を行っていきたい。
- ・シェアオフィスへの立地を対象にした補助金などがあるが、立地してくれた企業の負担を出来るだけ抑えられるよう、より使いやすい補助金を県でご検討いただきたい。

○人材育成・外国人材活用について

- ・新しくアニメの学科を立ち上げると認可申請の関係で時間がかかってしまうが、既存学科にアニメのカリキュラムを入れていくということであれば、早期の対応が可能。
- ・アニメが好きで、高知で仕事ができるのであるのであればぜひ来たいという留学生もいるので、海外人材活用の可能性は凄くあるのではないか。
- ・エンドロールで流れるスタッフに外国人が凄く多い。ハリウッド映画もそうだが、アニメやクリエイターの業界に国境の壁はないと思うので、戦略的にしっかりやっていけば伸びしろはあるのではないか。

- ・学ぶ場所とカリキュラム、そして、それらをどう見える化して人を呼び込むPRが出来るのかがポイント。
- ・ソーシャル・インパクト・ボンドの観点で、愛知県豊田市では年配の方が趣味や仕事など、色々な活動をすることにより介護費用面が4割削減出来ている。年配の方でもある一定のスキルを身につければ仕事が出来て、生き生きと暮らすことが出来るのではないかと。
- ・アニメの人材育成の部分は、日本のみならず世界に広がっていくのではないかと考えている。高知で学んで技術を習得し、高知発の仕事が出来るような所へ落とし込んでいくと非常に面白いのではないかと感じる。
- ・介護や病院の世界ではインドネシアの方々の人材活用が進んでおり、その方達に「どうして日本に来たいと思ったのか」と聞くとほとんどの方が「子どもの頃アニメが好きで日本に憧れて」と答え、特に女性の方が多い。日本のアニメーションは世界中で凄く高い評価を得ているので、ビジネスも含めて色々なツールとして有効に使えるのではないかとと思う。

○プロジェクトの情報発信等について

- ・一般の県民の方からすると、本当に出来るというイメージが湧きづらいのではないかと。「アニメクリエイターアワード」になるかもしれないが、何かプロジェクトを引っ張っていくものが必要。
- ・高知がアニメのまちだということが目立つように、空港や高速道路などにアニメ関連の設置物を置いて写真を撮れるような、目を引いて覚えてもらう場所づくりをまち全体でやっていると良いのではないかと。
- ・2025年から朝ドラで「アンパン」が始まるということで、凄く流れが良いと思う。高知にクリエイターがいるということが全国に広がることで、高知に人を呼びやすくなると感じている。
- ・南国市はやなせ先生が小学生時代にお住まいだったこともあり、「アンパンマン」やアニメを活かした観光についても理解を深めていきたい。
- ・企業がアニメでCMを作るときに県が制作費を補助する制度があれば、アニメを使った広告制作が進むのではないかと感じる。
- ・大ヒットしたアニメでも一過性に終わってしまう現実はあるが、コンテンツの中でもアニメの訴求力は大きいと思う。一局でアニメを制作することは経済的にも難しいので新たな枠組みを作って高知から発信するなどの工夫が必要と感じる。
- ・大道芸人の中では高知に来ると投げ銭で稼げるという噂になっている。土佐の風土として新しいものをどんどん取り入れるDNAがあり、高知にはそういった土地の力があると感じる。
- ・アニメを高知を知ってもらうきっかけにして「高知は面白そうだな」ということが広まっていくことが重要だと思う。高知には、それをきちんとお接待できるまちの力があるので、それを伸ばしていきたいと感じた。
- ・高知県だけではなく全国でもアニメを軸にして産業を活性化しようという動きは進んでいる。他の自治体でもやっているアニメの取組ということにならないよう、人材育成やプロジェクトについて、高知からしっかりPRすることが強く求められる。高知県内の動きだけでなく、俯瞰みて他の自治体の動きに負けないよう強く早く動かすことが大事。